

【地域の概況と課題】

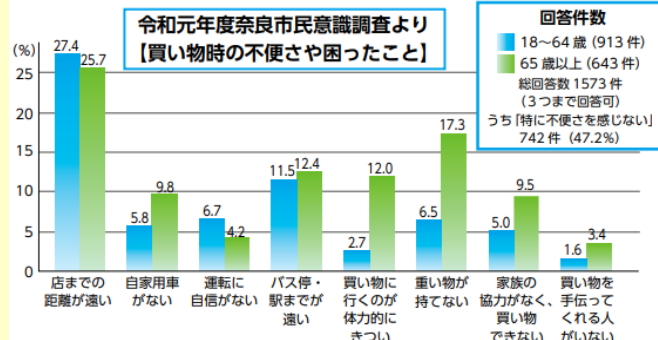
- 奈良市は、平成17年に旧奈良市・月ヶ瀬村・都祁村が合併し誕生した人口約34.9万人の県庁所在地
- 市内では、特に、山間部や昭和に宅地開発された丘陵部で高齢化が進展し、坂が多いといった自然条件ともあいまって買い物の課題が顕在化

【対応方向と特徴】

- 奈良市は、移動販売を行う民間事業者、市社会福祉協議会、地域包括支援センター等とともに、**令和2年9月に、「奈良市買い物支援ネットワーク」を立ち上げ、日常の買い物に困っている方への支援を実施**
- 同ネットワークは、以下により構成
 - ① **地域密着班**：市社会福祉協議会、地域包括支援センター、URコミュニティ：地域の声を伝え、販売場所の調整等を実施
 - ② **支援実施班**：ならコープ、セブンイレブン、近商ストア（とくし丸）、ダイエー、関西スーパー（とくし丸）：買い物支援サービス提供
 - ③ **広報班**：奈良市：連絡調整、広報宣伝等を実施
- ネットワークでは、定例会を2か月に一回実施し、市内で買い物に困っている方の情報を共有し、地域に合わせた解決方法を調整、話し合い
 - ※地域におけるニーズ調査（アンケート）を定型化するとともに、相談も受け付け
- 現在、移動販売車13台が、150か所+αの販売拠点を設け、移動販売場所・スケジュールを市のHPで公開
- 市が立ち上げたプラットフォームにおいて、民間リソースと地域ニーズを効率的、効果的にマッチングすることで、**公費を投入することなく、持続的なサービス提供を実現 ※市の福祉部門ではなく、産業部門が担うことで、民間の事業ベースでの取組を推進**

＜市民や移住希望者からの悩み・相談・要望等＞

- ✓ 近隣のスーパーが閉店してしまった。日常生活に必要な食料品や日用品の購入に困っている。駅、バス停までの距離も遠い。
- ✓ 高齢になり、車の免許を返納してしまったり、坂が多いので、重い物が持てない。体力的に買い物に行くのが厳しいので、家族の協力がないと買い物ができない。
- ✓ 好みの商品を取り扱う販売業者や買い物する曜日や時間帯を選べると、便利だし楽しみも増える。



奈良市買い物支援ネットワークの役割と構成員

